

映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

第1回人権問題講演会

日時:8月2日(日)13:30~16:30

場所:コムズ・5階・大会議室

内容:映画「隣る人」2013年ドキュメント作品

講師:映画監督

刀川和也さん

虐待や親の病気などの理由から児童養護施設「光の子どもの家」で暮らす子どもたちと職員の姿を追い続けたドキュメンタリー。

「私の全存在を受け止めて！」と不安の中で揺れ動き続ける子どもたち。自らの信念とその重さに格闘しながらも、子どもに寄り添い続けようとする保育士たち。離れて暮らす子どもと再び生活できるようになることを願い、人生を修復しようともがく実の親など、生命力に溢れる人々の姿が瑞々しく描かれている。どこにでもありそうな日常なのに観る人を、笑いと涙、人と人とのぶつかり合いの温もりで包み込む。

第2回人権問題講演会

日時:9月5日(土)13:30~16:30

場所:コムズ・5階・大会議室

内容:映画「折り梅」2002年公開作品

講師:映画監督

松井久子さん

それは、ある日突然、平和な家庭にふりかかった…。名古屋郊外のベッタウン、愛知県豊明市。サラリーマンの夫・祐三とパート勤めの妻・巴、中学生と小学生の子ども二人の4人家族に夫の母・マサコが同居することになった。そしてまもなく、マサコが変調をきたし始め、病院でアルツハイマー型痴呆症(認知症)と診断され、家族はバラバラになる。ところが、崩壊しかけた家族が思いがけない展開と様々な葛藤を経て、見事に再生してゆく物語に、人間の無限の可能性が描かれる。

原作は、愛知県在住の主婦:小菅もと子著「忘れても、しあわせ」。

第3回人権問題講演会

日時:10月3日(土)13:30~16:30

場所:コムズ・5階・大会議室

内容:映画:「人間みな兄弟 一部落差別の記録」1960年ドキュメント作品

講演:静岡大学教授

黒川みどりさん

ドキュメンタリー映画の雄:亀井文夫によって1956年に製作された映画で、結婚や就職などにおける部落差別の実態に迫っていく。ハンダの屑が含まれるゴミ土や灰を集めて小川で洗い出す少年、鹿ノ子絞りを紡ぐ女性、草履づくり、食肉関連事業や皮革生産などの被差別地区の生活を追う。

人権意識の高まりを背景として1965年8月には同和対策審議会の答申が出され、1969年には「同和対策事業特別措置法」が制定された。この映画は答申前の貴重な記録となっている。